

究極の安全をめざして

安全への考え方

JR東日本は会社発足以来、「安全」を経営の最重要課題とし、安全性の向上に取り組んできました。過去の痛ましい事故から真摯に学び、それを教訓としながら、ソフト・ハードの両面から事故を防止する努力を継続しています。

安全対策には「これで完全である」という終わりはありません。引き続き、「お客さまの死傷事故ゼロ、社員(グループ会社・パートナー会社社員を含む)の死亡事故ゼロ」をめざし、安全性向上への絶えざる挑戦を続けます。

経営における安全の位置づけ

「グループ経営構想V ~限りなき前進~」では、「『究極の安全』に向けて ~災害に強い鉄道づくり~」を「変わらぬ使命」の第一に掲げ、安全性向上に向けて、さらなる挑戦を続ける方針を打ち出しました。

東日本大震災では、それまで着実に取り組んできた地震対策が一定の効果を上げることができました。しかし同時に、さらなる安全に向けた課題も明らかになりました。この経験を踏まえ、首都直下地震などを想定した地震対策にハード・ソフト両面から取り組み、「災害に強い鉄道づくり」に邁進します。

また、列車衝突・脱線事故や踏切事故の防止に向けた取り組みをさらに強化するとともに、ホームドアの山手線以外の駅への整備をめざすなど、「安心してご利用いただける鉄道づくり」を推し進めます。あわせて、2014年度からは、新たに策定した「グループ安全計画2018」に基づき、「究極の安全」に向けた取り組みを強化していきます。

第6次安全5ヵ年計画「グループ安全計画2018」

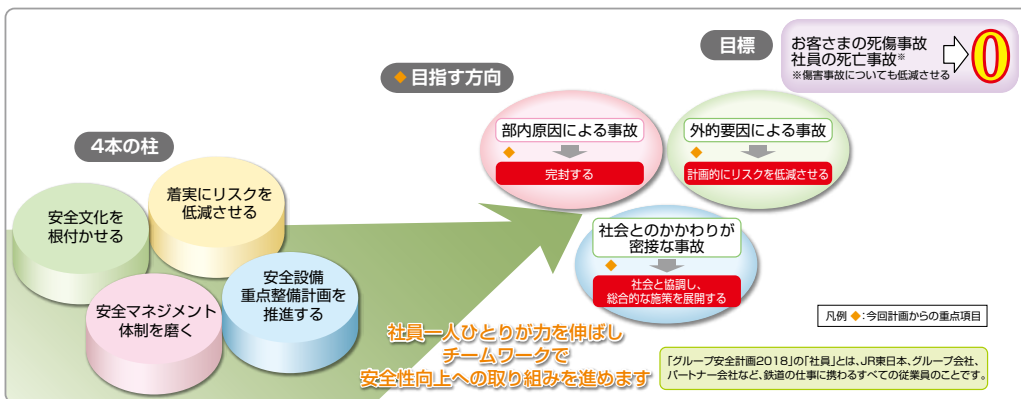
会社発足時から継続して策定・実施してきた中期的な「安全計画」により、安全設備の整備・改良、社員一人ひとりの安全意識や技能の向上に努めた結果、鉄道運転事故は会社発足時に比べ大幅に減少しました。2014年度は、第6次5ヵ年計画である「グループ安全計画2018 ~一人ひとりが力を伸ばし、チームワークで創る安全~」の初年度です。鉄道に携わる一人ひとりが安全レベルの向上に取り組む、グループ全体で「究極の安全」に向けて挑戦していきます。

グループ安全計画2018では、「部内原因による事故は完封する」等の「目指す方向」を明確にした上で、具体的な施策を展開します。また、「着実な技術の伝承」「事故の恐ろしさを深く学ぶ取り組み」等、安全を担う人材育成を推進し、安全マネジメント体制のブラッシュアップをめざします。



グループ安全計画2018/パンフレット

■ グループ安全計画2018の全体像



安全綱領

安全に関わる社員の行動規範として、安全綱領を定めています。

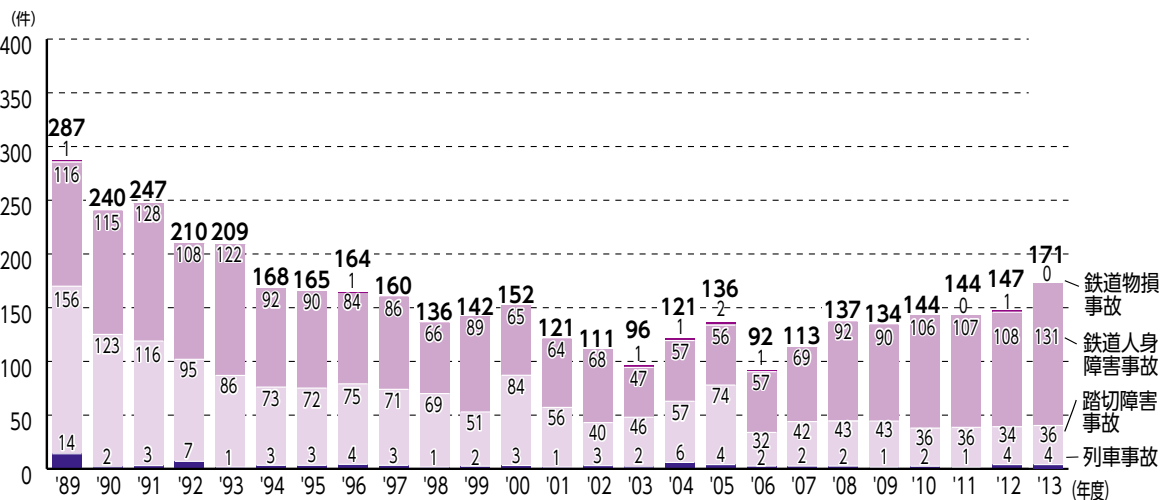
■ 安全綱領

- ① 安全は輸送業務の最大の使命である。
- ② 安全の確保は、規程の遵守及び執務の厳正から始まり、不断の修練によって築きあげられる。
- ③ 確認の励行と連絡の徹底は、安全の確保に最も大切である。
- ④ 安全の確保のためには、職責をこえて一致協力しなければならない。
- ⑤ 疑わしいときは、あわてず、自ら考えて、最も安全と認められるみちを採らなければならない。

鉄道運転事故の内訳・推移

2013年度の鉄道運転事故は171件発生しました。そのうち、踏切で列車が自動車や人と衝突・接触した踏切障害事故は36件で全体の約2割を占めています。その他に、お客さまのホーム上での列車との接触、ホームからの転落や線路内に立ち入ったことにより列車と接触した鉄道人身障害事故が131件で全体の約7割を占めています。この鉄道人身障害事故のうち、約7割がホーム上で発生しており、そのうち約6割は酒に酔ったお客さまによるものでした。

■ 鉄道運転事故の推移

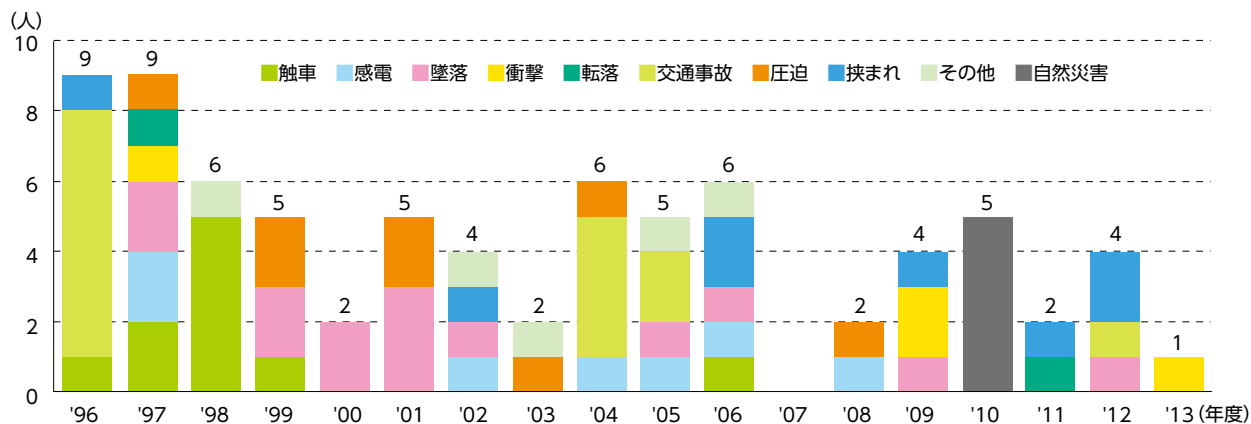


■ 鉄道物損事故：列車または車両の運転により500万円以上の物損が生じたもの
 ■ 鉄道人身障害事故：列車または車両の運転により人が死傷したもの
 ■ 踏切障害事故：踏切道において、列車または車両が、通行人や通行車両などと衝突・接触したもの
 ■ 列車事故：列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故

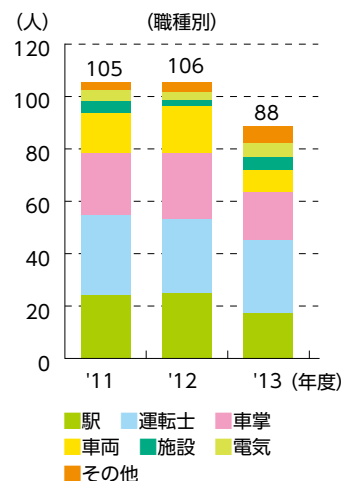
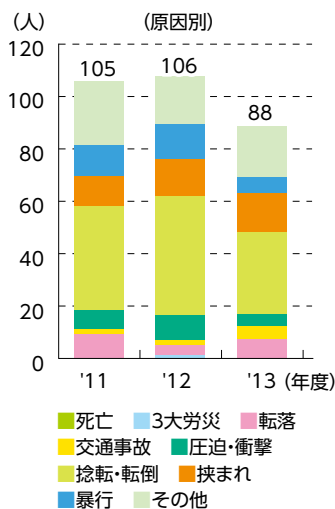
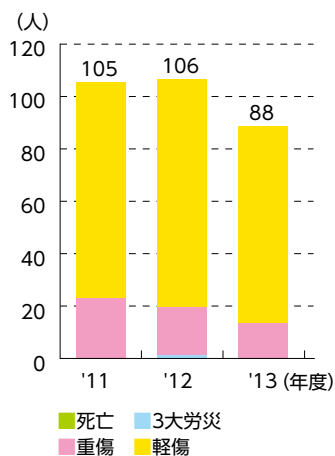
労働災害の発生状況

2013年度はグループ会社等社員の死亡災害が1件発生しました。「グループ安全計画2018」の目標として定めた「お客さまの死傷事故・社員の死亡事故0」に向け、グループ会社等と一体となって、「安全体制とルールが定められているか」「定められたルールが守られているか」などについて確認していきます。

■ 死亡災害の発生状況(グループ会社等社員を含む)



■ 休業以上災害(当社社員)



■ 休業以上災害(グループ会社等社員)

